

8月18日

ヘレナ

Saint Helena

(255-330)

～ローマ皇帝コンスタンティヌスの母～

<人名事典などでの別表記：エレナ>

ヘレナは小アジアのドレパヌム出身で、宿屋の主人の娘として生まれたと伝えられています。コンスタンティヌス・クロルスの子となり、コンスタンティヌス1世を生みますが、292年、夫が政略結婚を強制されて離縁されました。しかし、のちにコンスタンティヌス1世が皇帝となってから（在位306-337年）は、帝母アウグスタとして敬われます。

312年にヘレナはキリスト教徒となります。また、コンスタンティヌス1世は、ローマ帝国前夜に見た夢の影響で、キリスト教に対して寛大な政策を取るようになりました。ヘレナもまたキリスト教を保護し、力の及ぶ限り教会に助力します。おしみなく財産を投げ出して貧しい人を助け、ローマに聖十字架聖堂を建て、一般信者にまじって礼拝に出席したといわれています。

324年、すでに老齢に達していたにもかかわらず、ヘレナはエルサレムを訪れ、長期間滞在して貧しい人々を救済しながら、オリブ山とベツレヘムに聖堂を建てました。また息子コンスタンティヌス1世からの要望もあり、主の十字架をぜひ見たいと熱望します。そして326年、カルバリの丘一帯を発掘させ、ついに三つの十字架



Saint Helena  
of Constantinople  
by Cima da Conegliano

(1495)

National Gallery of Art, Washington D.C

とピラトがつけさせたという「ユダヤ人の王、ナザレのイエス」と記した札を発見したと伝えられています。三つの内の一つの十字架の上に亡くなった若者を置いたところ、その人が起き上がったため、その十字架こそが主の十字架であると判断したという伝説もあります。

そしてこのことは、カイサリアのエウセビオスやアンブロシウスが言及しています。また、3本の釘もコンスタンティヌス1世に送り届けられ、1本は彼の兜に、あと2本は彼の馬の馬具につけられたそうです。

ヘレナはコンスタンティノポリスに戻った後、330年に逝去し、ローマの聖十字架教会に眠ります。さらに、ローマ、コンスタンティノポリス、パレスティナにおける教会建築に影響を及ぼしました。

<特禱>

**全能の神よ、あなたは聖徒たちの愛と献身を通して教会を築き上げられました。わたしたちはみ前に記念する主のしもべ、ヘレナのために感謝いたします。どうかその模範に従うわたしたちを聖霊によって強め、今もこの世にあって聖徒たちとともにあなたの栄光を見て楽しむことができますように、み子イエス・キリストによってお願いいたします。**

アーメン